

テーマ 「豊かな学びを創造する ～クロッキーの実践～」

1 テーマ設定の理由

現代の私たちの生活の中では、手で作業をする機会はどんどん少なくなっている。生徒たちの遊びを見ても電子ゲームのようにボタンを押すという同じ手の動きがほとんどのものが主流で、自ら工夫して遊ぶことが少なくなってきたように見受けられる。

しかし、創造力とは実際に考え「もの」に触れ、それを自分の手で作り上げていくことによって豊かになっていくのであり、手作業はまた情操教育にも欠かせないものといえる。美術教育は様々な「もの」に触れさせ、それをどう生かし、形作っていけばよいのか考えてもらうことによって、創造力を育てていく。

絵画、彫刻などの基礎的な学習としてクロッキーやスケッチはよく行われている。その中でクロッキーもひとつの作品として自らの手で何かを作り上げ、表現するという点において感動を得られる課題である。その喜びを一人でも多くの生徒に体験してもらいたいと思う。いろいろな素材や手法に出会い、触れ合う過程で、自分なりの表現方法もきっと見つかるはずだ。

このような状況の中で、どのような授業の展開が必要なのか追求するため、このテーマを設定した。

2. 本年度の研究について

私は研究主題に掲げた「豊かな学び」を「個性を拓く学び」「社会につなぐ学び」「世界とむすぶ学び」の3つの視点から考えていくことにした。そして美術科では次のとおりに定義した。

①個性を拓く学び

美術の授業で基礎的な表現技法を習得し、表現や鑑賞に親しむ事で、美を感じ取り、美術を愛好する心情や豊かな心の基礎となる美しいと感じる心を育む。このことから、自分の思いや、考えを豊かに表現する力がつく学び。

②社会につなぐ学び

普段の生活の中で絵を描いたりものをつくったりして美術に親しむことや、色と形でわかりやすくスケッチや図や立体に表して伝え、共通に理解し合う能力、新しいもの・楽しいものなどを豊かに創造・発想し、それを形に表し、学校で、あるいは社会の一員として表現する造形表現や発信力の基礎的能力を身につける学び。

③世界と結ぶ学び

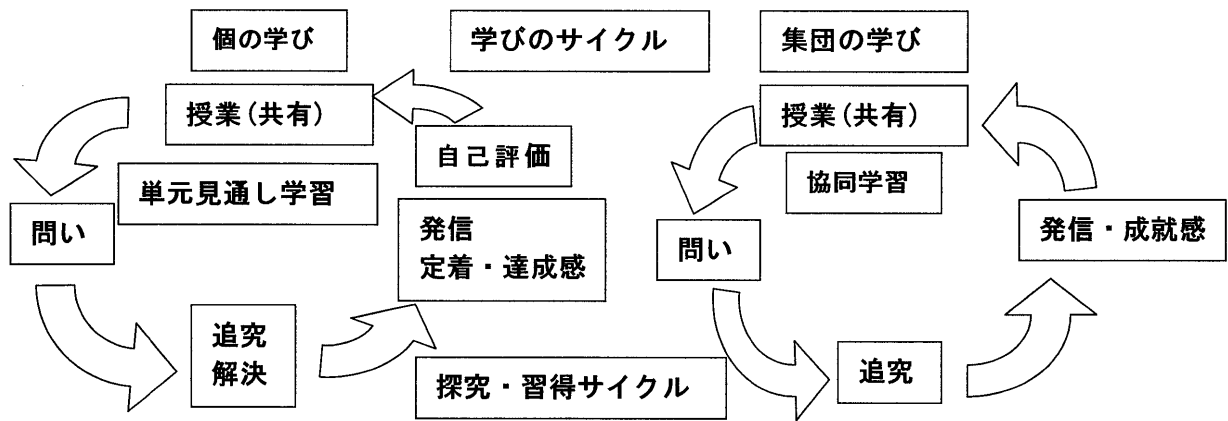
国際社会において鑑賞を中心として、日本の伝統美や継承の美など自国の文化を理解する。また、海外諸国の美術作品や文化遺産としての芸術等を鑑賞し、美の歴史や文化、暮らしや生き方と美術のかかわりの理解楽しみ、味わい、よき特質などを感じ取り、理解し、発信する基礎的な能力を培う学び。

教科における「個の学び」と「集団の学び」のとらえ方としては、「問い」がありその「問い」に対して創造や制作を通して解決・追究しその結果得られるのは達成感であり成就感であると考えている。また自己評価や他者評価により自分の作品をより客観的に見ることができ自己や他者の個性を感じ取り感想をまとめることができるのではないかと考える。

「追究し、発信する力を育成」するために教科としての取り組みであるが、例として1年生で前期に取り組んだ「でっかい靴を作ろう!」では4人のグループになり協同学習を通してお互いに「問い」をぶつけ合い問題を解決して作品を完成させる。『個性』を表現するために自己確認しようと試行錯誤しながら追究する。

同時に形や色などの表現を工夫し、独創力を高めようとする。形や表現方法を認め合いながら、追究力が高まりそのことが達成感や成就感につながっていく。

「学び合いの場」の設定については、美術という教科の特徴として、個人で一つの作品を創り上げるという面と協同でひとつの作品を完成させるという面と2つの面がある。やり方としては、一つの作品



を何人かで同時に作業する場合といくつかの行程に分けて作業する場合とがある。1人ではなかなか進みにくい作業でもそれぞれの得意分野を生かすことで一つの素晴らしい作品を創ることが出来る。協同学習を行い学び合いの場を設定するにあたって基本的には、グループ全員にとって高い目標がありお互いに高め合えるものがあることが必要である。1人では解決できないし完成できないが、グループのメンバー一人一人が協力すれば解決できる目標なり課題が必要だと思われる。

更に美術科では、追究し、発信する力を育成するにはどのような授業が、豊かな表現力を育成し、確かな基礎的能力をつけられるのか、生徒が主体的に学習を進められるのか、「習得」と「探究」に着目して考えてみる。美術では、用具の知識、絵の具の塗りかたなど、表現するための用具の技術や知識を関心・意欲・発想・技能・鑑賞能力に生かすことが「習得」であると考え。

また「習得」「探究」と関わって、1日7時間の時間割の導入によりそれぞれの学年が週1.5程度の時間がある中で今まで時間的に困難であった長期にわたる課題がやりやすくなった。そんな中、問い・追究・発信が循環させながら『豊かな学び』を創造する活動を目指す。

3. 成果と課題

本年度の研究について、次の3点から考える。

「個性を拓く学び」・・・技法や技術の習得、感受力の向上。

「社会につなぐ学び」・・・作品を共通理解することによって、造形表現力や発進力をつける。

「世界とむすぶ学び」・・・自国文化の伝承美・継承美を学ぶことによって情操を培い、世界に目を向ける。

成果としては、クロッキーをとおした制作で情報の伝達とイメージ、線描きの面白さなどを理解することでお互いの創造力が刺激し合えた。またポーズが変わっていくことにより、より緊張感と集中力がついたのではないかと考える。

これからの課題としては、1年時に引き続き更に自分の思いや考えをさらに豊かに表現できる「個性を拓く学び」を明確にする必要がある。生徒の感受性の盛んな時期に情操の豊かさにこだわりながら伸び伸びと制作することの大事さを痛感した。今回の作品は、絵画の基礎練習にとどまらず広くコミュニケーションスキルの要素も含んでいるため、生徒同士の相性等の問題が出てくることもあるが、そのことでまた新たな発見や生徒自身の成長も図ることができるのではないかと。他者を学び、自分を見つめるという美術のもつ根源的な課題にもより迫っていけるのではないかと。

また、指導案には現れてこない、指導のあり方、参考作品の選び方、視聴覚機器の使い方が授業でもっとも大切な部分だと考える。今回は、そのいずれにおいてもあまり十分に吟味されたものではなかったため今後より一層生徒の興味関心を見極め、指導における言葉を精選し、参考作品、資料などを厳選することで生徒の心に響く楽しく興味を持って取り組める授業にしたいと考える。さらなる言葉の選び方、小気味よい、テンポのある指導を追究していければと思う。

実践 必修教科 1 年生

授業者 秦 野 敦

① 題 材 クロッキー（素描）

② 題材について

クロッキーは、スケッチ、絵画、彫刻などの基礎的な学習としてよく行われている。しかし場合によれば、クロッキーもひとつの作品として十分に成り立つし、自らの手で何かを作り上げ、表現する喜びは変わらない。いろいろな手法に出会い、触れ合う過程で、自分なりの表現方法がきっと見つかるはずである。クロッキーは、観察力や表現力を養う絵画の練習題材としてだけでなく情操や感性に関わる活動として、幅広く集中力や創造力などを育てることに有効な題材であり、日々の生活にも生きる造形能力や感覚を育てられると考える。クロッキーは描くことそのものを純粹に楽しめる教材なのに、絵画の基礎練習としての通り一遍の取り組みになりやすく、子ども達の描く喜びを引き出すことができない授業に陥る傾向が見られた。もっと楽しめたらいいのになぁという思いと稀薄になりつつある友達との関わり合いを協同学習を通じて少しでも感じてもらえたらとの思いから本題材を設定した。クロッキーでの描画は、やり直しのきかない一回性による緊張と、次々と画用紙を新たに描き直していけるという連続性の二つの面を持つ。この題材では、一方で緊張感ある表現行為を行いつつも、他方では友人の作品鑑賞やポーズの工夫などの話し合いの中で表現の多様性を知り、描画の発想や工夫を行うことが求められる。このようなアプローチのから協同的に学ぶことにより気づきや、つまづきを繰り返しながらも前向きに自己を表現していく方法を見出せるし、「豊かな学び」の「個性を拓く学び」ということに関わって追究し周りとの関わりの中で発信する力が育つのではないかと考えた。また独創性にこだわった作品を制作していくことで、「個性を拓く」力を高めることをねらいとし、学び合いの場はひとつの社会としてお互いを刺激し合える良い場として位置づける。

この授業では、協同学習の手法を取り入れクロッキー本来の線による描画の面白さ、単純明快さ、自らがイメージしたものを何も無いところから創造する難しさや出来た時の達成感を得ながら、協同学習によりみんなと協力してつながり合い、関連をもちながら作品を作っていく中で喜びや共感を得られたらと思う。

③ 学習目標と評価基準

学習の目標 評価規準	人体表現の既成概念を崩し、豊かな表現力で生き生きと素描表現を行い、クロッキー（素描）をより身近なものとする。
美術への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・人体クロッキー（素描）に表現に興味・関心をもち楽しんで表現できる。 ・進んで活動に取り組もうとしている。 ・準備、後片付け等が適切にできる。
発想構想の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・人体クロッキー（素描）の技法を理解し、わかりやすく個性的な発想をすることができる。
創造的技能	<ul style="list-style-type: none"> ・人体クロッキー（素描）の技法を理解し表現手法や技能を生かして作品をつくることができる。
鑑賞の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・人体クロッキー（素描）制作の特徴、工夫点などを感じとったり発表できる。 ・自分の作品に愛着をもち、大切にしようとする。

④ 学習計画（本時は 8 時間目）

学 習 過 程	学 習 の 中 心	教師の働きかけと学びのサイクルについて	観 点
描画の基礎 (2 時間)	クロッキー（素描）の基本的な学習	鉛筆の使い方など基礎の描画手法について 理解させる。 習得	関心 発想

手のスケッチ (2時間)	クロスハッチングなどを使い簡単に描く。	テーマに関係なく自由に表現させ鉛筆の使い方に慣れるとともに技能を習得する。 探究・習得	発想技能
靴のスケッチ 淡彩 (3時間)	クロスハッチングなどの手法を使い、線を中心に描く。	淡彩について理解させる。 探究・習得	発想技能
クロッキー (2時間)	クロッキーで生き生きとした線を描く。	クロッキーの手法について理解させる。 探究・習得	発想技能
鑑賞 (1時間)	活動を振り返り、相互に作品を鑑賞し評価する。	クロッキーの手法について理解させる。 探究・習得	発想技能

⑤ 本時の目標

- ・クロッキーによりポーズを工夫する。
- ・早描きによる自由で生き生きとした線を大事にする。
- ・協同学習をとおしてクロッキーの楽しさを味わう。

⑥ 本時の展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	備 考
<p>本時の課題（協同学習をすること）などの確認をする。 5分</p> <p>・テーマ記入・選択 10分</p> <p>・素早く特徴をとらえて描く 25分</p> <p>・自己評価表の記録 ・次回のめやすと持ち物の連絡を聞く 5分</p>	<p>・取り組みについての説明、準備をする。</p> <p>・協同学習の班4人で座らせる。</p> <p>・4枚の用紙にポーズのためのテーマを記入し「ボックス」に入れる。（ふざけたものにならないように配慮する）</p> <p>・4人班の中で2人一組になる。</p> <p>課題を「ボックス」よりひとつ選びその言葉をもとにしてポーズをとってもらいクロッキーをする（描き手は、タイトルにポーズのタイトルを描くモデルは、何のポーズをとっているか言わない。）</p> <p>・消しゴムは使わないでのびのびとした線で描いていく。</p> <p>・形はわかる程度でよいが、勢いのある線で描かせる。</p> <p>・描き終わったらモデルを交替し再度ポーズを考えてクロッキーする。（このときにモデルに何のポーズだったか聞いても良い）</p> <p>・モデルも描き手も交替する</p> <p>・班の中で相談しながらすすめる</p> <p>・出来上がった作品にタイトルやサインと日付を入れる</p> <p>・自己評価（班員の感想も聞く）</p> <p>・進捗状況を確認し、次時の制作についての全体指導をする。</p>	<p>・記入シートの配布</p> <p>・スケッチブック</p>

準備

生徒・・・教科書、資料集、色鉛筆、鉛筆、サインペン、筆ペン、スケッチブック
 教師・・・クロッキーの作例、タイトル記入用シート

生徒から出たポーズ例

リラックス、空気いす、片足立ち、自由の女神、疲れた、普通、こしかける、考える、普通に立つ、座禅三角座り、悩む、後姿、びっくり、イナバウワー、勉強中、肩を組む、万歳、ピース、「命」のポーズ、「大」のポーズ、ET、楽器演奏、手を振る、大仏、体をひねる、モナリザ等

⑦ 結果と考察

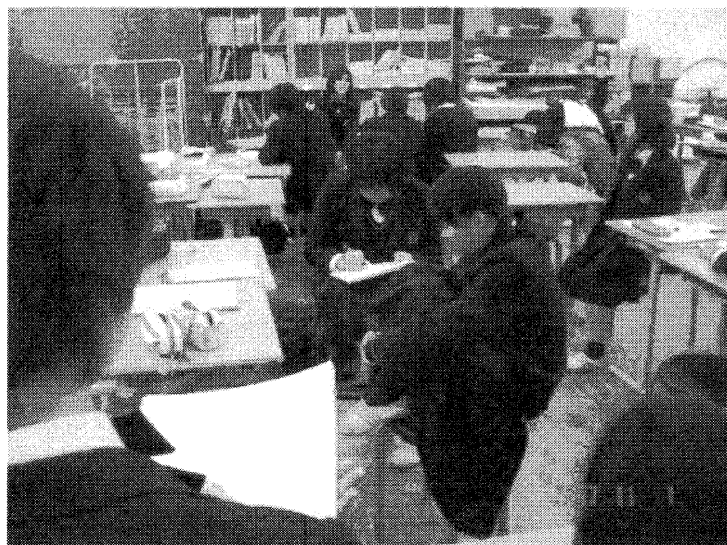
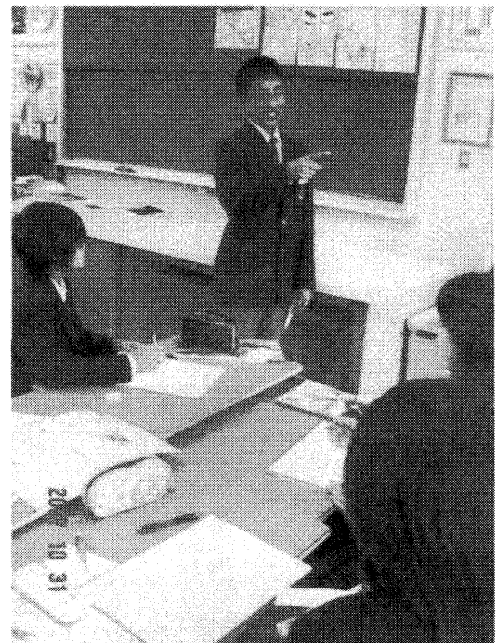
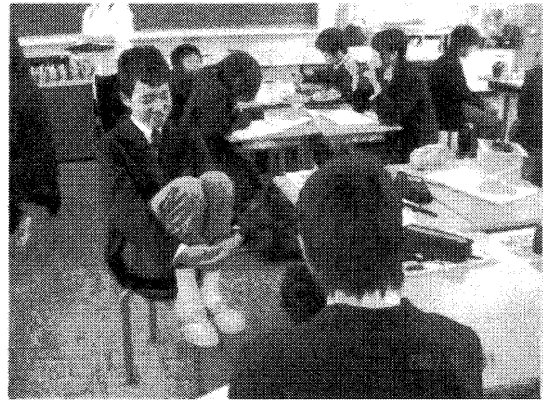
今回の授業は、クロッキーの方法を知り自分がモデルの場合はポーズを工夫し、描き手の場合は自由で美しい曲線を描くことを目標にしたものであった。生徒は、クロッキーという題材をとおして友人との会話や関わりの中で作業を進めることにより友達の意外な一面に驚いたり、また新たな発見があったり飽きることなく作業を続けることが出来た。

しかし、目標としている学びに到達するにはもう少しじっくりと腰を据えた取り組みが必要だと感じる。協同学習によりお互いが刺激し合うことにより、さらにより良いものを創っていきたいという気持ちの中で試行錯誤を繰り返す。その中で『個性』を表現するために構図やタッチなどの表現を工夫し、独創力を高めようとする。お互いの構図や表現方法を認め合いながら、協同的な力が高まり「個の学び」「問い」「追究・解決」へと循環させながら「成就感・達成感」が得られる活動を目指す。

また、相互鑑賞を通して自己確認することができ、他者の『個性』を感じ取り、思いついたことを次の作品にすぐに反映させることが出来るのがクロッキーのメリットだと考える。制作の段階で相互鑑賞の時間をわざわざつくらなくても適宜お互いに見せ合っ『個性』を自己確認し、試行錯誤・追究の循環を起こさせることができると考える。また他者の『個性』にふれることで、友達のよさや自分との違いを直に感じることができ、絵画の価値観の成長には有効な題材であると言える。

題材と生徒との関係では「何それー。変になったー・・・。」と教室に響く生徒の声の中、失敗してもOKという風に前向きに考えることでより生徒一人一人が自分自身を見つめ直し、線描きの形がうまく行かなくてもやり直せばよいという気楽さを生かして更に生き生きとした線描写を試みさせる。生徒と教師の想いがぶつかり合う熱い想いのこもった造形活動の中で、自ら課題を見つけ、追究し、達成感を得られるような活動がより逞しい生徒に育ってくれるのではないかと考える。





クロッキー自己評価

A・・・とてもよくできた B・・・よくできた C・・・まあまあ D・・・あまりできなかった
E・・・全然できなかった の4段階で自己評価しよう。

理由(具体的に)	自己評価
徹底的に授業に取り組み事が出来た	A
ペンを効果的に使って生き生きとした絵が描けた	B
糊固を工夫して効果的なデザインをすることができた	A
準備物の忘れ物がなく後片付けなどがしつかりできた	A
もうまく表現できたとおもうところや、楽しかったところなど制作を振り返る感想を書こう。 ★★ではないはずで、できるだけたくさん書いてください	

年 組 番氏名

クロッキー自己評価

A・・・とてもよくできた B・・・よくできた C・・・まあまあ D・・・あまりできなかった
E・・・全然できなかった の4段階で自己評価しよう。

理由(具体的に)	自己評価
徹底的に授業に取り組み事が出来た	C
ペンを効果的に使って生き生きとした絵が描けた	C
糊固を工夫して効果的なデザインをすることができた	C
準備物の忘れ物がなく後片付けなどがしつかりできた	B
もうまく表現できたとおもうところや、楽しかったところなど制作を振り返る感想を書こう。 ★★ではないはずで、できるだけたくさん書いてください	

年 組 番氏名

クロッキー自己評価

A・・・とてもよくできた B・・・よくできた C・・・まあまあ D・・・あまりできなかった
E・・・全然できなかった の4段階で自己評価しよう。

理由(具体的に)	自己評価
徹底的に授業に取り組み事が出来た	C
ペンを効果的に使って生き生きとした絵が描けた	C
糊固を工夫して効果的なデザインをすることができた	C
準備物の忘れ物がなく後片付けなどがしつかりできた	B
もうまく表現できたとおもうところや、楽しかったところなど制作を振り返る感想を書こう。 ★★ではないはずで、できるだけたくさん書いてください	

年 組 番氏名

クロッキー自己評価

A・・・とてもよくできた B・・・よくできた C・・・まあまあ D・・・あまりできなかった
E・・・全然できなかった の4段階で自己評価しよう。

理由(具体的に)	自己評価
徹底的に授業に取り組み事が出来た	A
ペンを効果的に使って生き生きとした絵が描けた	C
糊固を工夫して効果的なデザインをすることができた	B
準備物の忘れ物がなく後片付けなどがしつかりできた	A
もうまく表現できたとおもうところや、楽しかったところなど制作を振り返る感想を書こう。 ★★ではないはずで、できるだけたくさん書いてください	

年 組 番氏名

クロッキー自己評価

A・・・とてもよくできた B・・・よくできた C・・・まあまあ D・・・あまりでなかった
E・・・全然できなかった の4段階で自己評価しよう。

意図的に授業に取り組み 事が出来た	自己評価	理由(具体的に)
ペンを効果的に使って生 き生きとした線が描けた	A	線の色を白と黒を使い分けて描けたこと。
構図を工夫して効果的な デザインをすることがで きた	B	デザインを工夫して構図を工夫できたこと。
準備物の忘れ物がなく後 片付けなどがしつかりで きた	A	持ち物の忘れ物がなく後片付けがしつかりだったこと。

★うまく表現できたところや、難しかったところなど制作を終えての感想を書こう。
★★でいいはずで、できるだけたくさん書いてください

年 組 番氏名

クロッキー自己評価

A・・・とてもよくできた B・・・よくできた C・・・まあまあ D・・・あまりでなかった
E・・・全然できなかった の4段階で自己評価しよう。

意図的に授業に取り組み 事が出来た	自己評価	理由(具体的に)
ペンを効果的に使って生 き生きとした線が描けた	E	線の色を白と黒を使い分けて描けたこと。
構図を工夫して効果的な デザインをすることがで きた	E	デザインを工夫して構図を工夫できたこと。
準備物の忘れ物がなく後 片付けなどがしつかりで きた	D	持ち物の忘れ物がなく後片付けがしつかりだったこと。

★うまく表現できたところや、難しかったところなど制作を終えての感想を書こう。
★★でいいはずで、できるだけたくさん書いてください

年 組 番氏名

クロッキー自己評価

A・・・とてもよくできた B・・・よくできた C・・・まあまあ D・・・あまりでなかった
E・・・全然できなかった の4段階で自己評価しよう。

意図的に授業に取り組み 事が出来た	自己評価	理由(具体的に)
ペンを効果的に使って生 き生きとした線が描けた	A	線の色を白と黒を使い分けて描けたこと。
構図を工夫して効果的な デザインをすることがで きた	A	デザインを工夫して構図を工夫できたこと。
準備物の忘れ物がなく後 片付けなどがしつかりで きた	A	持ち物の忘れ物がなく後片付けがしつかりだったこと。

★うまく表現できたところや、難しかったところなど制作を終えての感想を書こう。
★★でいいはずで、できるだけたくさん書いてください

年 組 番氏名

クロッキー自己評価

A・・・とてもよくできた B・・・よくできた C・・・まあまあ D・・・あまりでなかった
E・・・全然できなかった の4段階で自己評価しよう。

意図的に授業に取り組み 事が出来た	自己評価	理由(具体的に)
ペンを効果的に使って生 き生きとした線が描けた	A	線の色を白と黒を使い分けて描けたこと。
構図を工夫して効果的な デザインをすることがで きた	A	デザインを工夫して構図を工夫できたこと。
準備物の忘れ物がなく後 片付けなどがしつかりで きた	A	持ち物の忘れ物がなく後片付けがしつかりだったこと。

★うまく表現できたところや、難しかったところなど制作を終えての感想を書こう。
★★でいいはずで、できるだけたくさん書いてください

年 組 番氏名